



社会福祉法人

開局30周年記念

# 香川いのちの電話

# 通 信

第66号

相談電話

 みみをかたむけなやみゼロ  
 087-833-7830

FAX相談

 むつんでいちばんしみじみ  
 087-861-4343  
 (24時間年中無休)


雪の中を走る琴電・円座町 写真提供 宮武則明

## 開局30周年によせて

香川いのちの電話協会 理事長 大須賀 誠

1982年12月香川県ボランティア協会内に「いのちの電話開設準備会」が開設され、翌年10月から相談員養成講座を開始、1984年10月6日、香川いのちの電話協会は約2年近い準備を経て、花園町の2階建ての一軒家を借りて開局しました。今から30年前、全国で18番目の開局でした。

認定された相談員は約90人名年中無休10時から22時までの12時間体制でのスタートでした。狭くて使いにくい事務所でしたが、相談員の意気は軒昂でボランティア精神に溢れていました。「孤独にあって助けと励ましを求める人々に対し、電話相談を通じて援助すること」その目的がひとり一人の相談員の間で共有されていました。

開局から3年後1987年9月に社会福祉法人の認可を受け、さらにその9年後1996年には24時間体制に移行、センターも花園から塩上、そして天神前へと着実に進展し、今では自前のセンターを持つに至りました。

その間延べにすると50名にもなるかというスーパーバイザーの先生方、養成講座の講師の先生方に支え

られて延べ670名以上の相談員が誕生し、総受信件数40,681件という相談活動を展開してきました。さらに延べ個人434人、89団体の方々から貴重な浄財をご寄附いただき、また県、市、県市の社会福祉協議会や共同募金会等からも多大な助成をいただきながら続けてきた30年でした。

いろいろの数字を並べましたが、その数字が大切なのではありません。それぞれの数字に込められた多くの方たちの思いこそが大切にされるべきなのです。私たちが開局30年を迎えることができ、今この瞬間にも電話相談を受けているということが、どれだけの方たちの支えと想いの上に成り立っているかをしっかり意識しながら35年、40年に向けての第一歩を仲間たちと一緒に歩んでいきたいと思えます。生きにくい世の中を、それでも懸命に生きようとする人々の嘆きやため息を受け止めながら。

これまでのいのちの電話を支えてくださったすべての皆様に心からお礼を申し上げますとともに、これからのちも、物心ともに一層のお力添えをお願いし、開局30周年のご挨拶とさせていただきます。

# 香川いのちの電話協会は 開局30周年を迎えました



## 「30周年記念交流会」を開催しました

私たち社会福祉法人香川いのちの電話協会が設立して30年が過ぎ、そのお祝いの「30周年記念交流会」を開きました。香川いのちの電話協会にご支援をいただいている方、相談員OB関係者85人が集って平成26年11月22日午後4時から高松市総合福祉会館（高松市観光通）で開催されました。まず、今年度新しく理事長に就任された大須賀理事長の挨拶があり、ついで、今滝理事から後援会員等の紹介がありました。乾杯の発声は、島津研修委員長（理事）にいただきました。この30年を振り返って、開局当時を1期相談員河村さんが当時を思い出しながら話してくれました。また、岩井真美さん、水ト令子さんより、当時の相談員活動の思い出や現役相談員へのアドバイスを頂



きました。その後、フォークソング、オペラ、ポップスのご演奏などがあり楽しい時間を過ごしました。参加者は明日からの元気を頂きました。ご公演いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。（広報担当 蓮井）

### ♪アトラクション

ウインズ  
市長オペラちえちりあ  
ノーリスントックライ  
のみなさま



### 開局30周年記念

## 香川いのちの電話開局30周年を祝して

一期生 河村 弘子

「香川いのちの電話開局30周年」を迎えおめでとうございます。

私は香川いのちの電話一期生の河村弘子でございます。讃岐富士の南麓の丸亀市飯山町に住んでいます。開局当時は綾歌郡飯山町でした。

本日の30周年記念交流会で「一期生としての思い出」を語ってほしいと、長い間活動を共にした方から依頼されました。後輩の方々のお役に立つのであればと思ひ、皆様の前に出させて頂くことと相成りました。

何をお話させていただこうかと当時の「ともしび」をひも解いてみました。はじめて私が手にした「香川いのちの電話」からの連絡はこの「事務局だより

No.4」でした。昭和58年10月発行のもので、何十年かぶりを取り出してみても実に驚きました。手書きなのです。

当時は当たり前のことだったのかもしれませんが、まさに手塩にかけて事務局の方々が「香川いのちの電話開局」に向けた熱意が伝わってきました。今はIT時代です。これだけをとってみても「香川いのちの電話30年」の長い長い歴史を感じます。

第一期養成講座は昭和58年10月22日(土)から受講生110名でスタートしました。昨日のことを忘れる年齢になりましたが、110名の受講生一人ひとりの姿は今も思い出されます。講座中に交わされた質疑応答も鮮やかに思い出されます。



大須賀理事長



河村氏



岩井氏



水ト氏



田中実行委員長

開局はその1年後の昭和59年10月6日(土)のことでした。記念式典・記念講演・記念祝賀会と続き、「香川いのちの電話」は、力強く開局したのです。決意表明では「一人で悩まず、電話をかけて下さい。私達はあなたの言葉に耳を傾けます。私達はあなたの孤独な心に寄り添います……」と読み上げました。

「私達一期生がいのちの電話を支えていこう」と固く誓い合ったものでした。翌日、開局記念の写真が大きく四国新聞にの記事になり職場の後輩が見つけ内緒にしていた受講がばれてしまった記憶があります。

110人の受講生の中には既に鬼籍に入られた方も多くいます。土曜日D帯をよく一緒に担当した小豆島土庄町の相談員さんが若くして亡くなり告別式に参加したことがありました。白装束に身を包んだ遺族の方々の姿にカルチャーショックを受け、小豆島は岡山の文化を受け継いでいるのではと思われました。同時に、相談員は香川県下から広く来られている事を実感した日でもありました。開局当時は他に相談機関が少なく、種々多様な内容でした。一期生は先輩がいないので手探りの連続でした。夜遅くまでみんなで語り合ったものです。

最初の相談室は花園町の古い民家の2階をお借りしました。狭い相談室で、隣の相談員の声が気になりました。聞こえないように聞こえないようにと一心に電話に向かった記憶があります。次は瓦町の相談室でした。駐車場が共有で何度も駐車違反の切符を切られた苦い思い出があります。その後、マンションの一室になり相談室は転々として、現在の相談室に落ち着きました。これもひとえに、今は高知県四万十市に帰られました小笠原望先生のお陰です。講演会の折に壇上から「どこか適当な相談室がないのでしょうか」の呼びかけが功を奏したのです。「人生は出会いのドラマである」としみじみ体験しました。電話をかけてくる方との出会い、相談員の方々との出会い、支えてくださるスーパーバイザーの先

生方との出会いがあり、多くの事を学ばせて頂きました。今でも交流を重ねている方々の存在は、かけがえのない財産であり、生きる力となっています。

当時の香川いのちの電話の小島理事長が「本業あつてのボランティアです。本業を大切にしてください」といつも言われていました。当時、私は保育士だったのです。この言葉を肝に銘じて定年退職まで両立させました。私が相談員を志したのは38歳の時でした。末っ子がまだ小学校3年生でした。今考えると相当無理をしていました。反対する夫や姑を「これからは家のために何でもするから」と必死で説得したのです。よく許してくれたものだと今は感謝あるのみです。

今は相談活動を休んでいます。「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」という有名な言葉がありますが、私はそれを「いのちの電話」で学んだと自負しています。

どうか皆様！力の続く限り電話相談を継続して行ってください。孤独な人の言葉に耳を傾けることは、実は自分自身の心に耳を傾けているのではないのでしょうか？

相談活動はとてもしんどい作業ですが、皆様方のこれからの人生を豊かに生きる心の糧になることを願って、一期生からの応援メッセージとさせていただきます。

本日は本当におめでとうございます。



## 香川いのちの電話公開講座 報告-レポート-

## 「絵本を通して心の平和を」

講師 葉祥明先生 (よう しょうめい)  
絵本作家・画家・詩人

●とき 平成26年10月25日(土)  
●ところ サンポート高松大ホール



葉祥明先生は、本の表紙の絵をスクリーンに映して話されました。以下、お話の要約です。

絵を書き、詩を書き続けて45年になります。葉祥明です。68歳です。皆さんは、私のイメージとして「青空と緑の草原」があると思います。「幸せってなあに」という本は、ニューヨークのトレードセンターが壊れた時に書きました。愛する人をなくしたときに人は、「幸せとは・人生とは・家族とは・生きるとは」と深く考えます。本を読んで感じたときに「幸せって」を考えてください。「ヒーリングキャット」は、現代に生きる女性たちに声援を送る本です。「気にしない」は、タイトルそのものが中身です。念仏のように急がない無理しない。気にしないと聞きかたせています。法然上人が伝えた言葉が細胞まで届くでしょう。心が安らぎます。今生きることに感謝しましょう。人は生きるためにこの世にやってきています。自ら死を選ぶためではありません。やりたいことをするために人生があります。「幸せに生きる100の知恵」という本は、100回読めば幸せを実感できます。人は成長途中にあり、昨日よりも今日、今日よりも明日と成長していきます。

疲れた時、辛い時は心の居場所で一息ついてホッとしていきます。小さな虫たちも生きるために生き続けているんです。「心に響く声」のなかに希望という言葉は希な望みですが叶うものです。夢は目が覚めると消えるものです

が、希望はかなうものです。奇跡だって起こるんです。そう信じることで必ず良くなるんです。人は誰かのために生きているし、誰かのおかげで生きています。多くの人の支えで生きていることを実感してください。いなくなったら悲しむ人がいることだけでも意味があります。その言葉の世界に、私たちの絵があります。私の美術館には手すりがあります。生きづらい世の中での救いがあります。たくさん絵を飾っています。季節の姿を見せてくれます。

年を取るということは肉体が古くなっていますが、その中には命や魂、意識が入っています。それが少しずつ肉体から離れていきます。それが、自然死でしょうか。死とはなんでしょう。命とはなんでしょう。答えが見つからない時には、一段高いレベルから見ると答えが見つかる時があります。地球の反対側のことも地球上はかなところでもよく見えてきます。ちょっと違う視点で見ると見えてくるものです。答えに近寄っていることがわかります。もう少し考えてみようというときには電話することです。もうひとりの自分意識から自分自身を見つめてください。悟りの世界が見えてきます。「臨機応変」「自由自在」「冷静」「沈着」を大切にしてください。人生は流れいく大河です、よどみがあります。電話をかけたくなります。そこに「いのちの電話」はそのよどみから抜け出すお手伝いをしています。どうもありがとうございます。

(広報担当 蓮井)



## 「いのちの電話」はあなたのご支援を必要としています.....

いのちの電話の活動は、多くの善意あるボランティアの無償の奉仕によって支えられています。眠らぬダイヤルの施設維持費、相談員研修費、広報活動など、年間1千万円の資金が必要となっています。ボランティア活動である「いのちの電話」は、それを支える財政的基盤は大半が市民の、あるいは企業や諸団体からの寄付で支えられています。ひとりでも多くの方に資金ボランティアとして関わってくださいますよう、お願い申し上げます。

## 【後援会費】

- ・ 個人会費.....年頭①2万円 ②1万円 ③5千円 ④2千円
- ・ 団体会員.....年頭①10万円 ②5万円 ③3万円 ④1万円

【寄付金】 金額はご随意です。クリスマス、歳末など折にふれてご協力下さい。

〈振込先〉

社会福祉法人香川いのちの電話協会  
理事長 大須賀 誠

《お振込みは下記のいずれかをご利用下さい》

- ・ 香川銀行本店(普) 1389129
- ・ 高松信用金庫本店営業部(普) 4821464
- ・ 百十四銀行本店(普) 1473589
- ・ 郵便振替1600-5-9348

宮武則明プロフィール (2006.6より写真提供者)

高松市円座町在住。元讃岐写真作家の会所属。現在「ギャラリーMON」(朝日町)において定期的に作品展を行っている。写真集「讃岐の町並」讃岐写真作家の会著ほか9冊発刊。「香川の歳時記365日」四国新聞に写真提供。現在も活躍中。

発行所 社会福祉法人香川いのちの電話協会  
〒760-8691 高松市中央郵便局 私書箱152号  
事務局 電話(087)861-7065  
発行人 大須賀 誠 編集 広報委員会